

数学の学習ガイダンス

高校の数学は、中学の数学に比べて内容が濃くなり、進度も速くなります。まずは普通の授業を大切に「予習」→「授業」→「復習」の流れを確立しましょう。勉強だけではありませんが、基礎・基本をおろそかにしたままレベルの高いことにチャレンジしても上手くはいきません。「中学校まではたいして勉強しなくても数学ができた」という人は、いつの間にか「数学が不得意科目」なんてことにならないよう、別紙の年間授業計画表を参考に根気よく取り組みましょう。以下に学習のポイントをまとめておきましたので参考にしてみてください。

<予習>

①予習はまとめて行う。

1年生では、ほとんど毎日授業があります。したがって、次の授業の分しか予習をしないとすると、毎日予習しなければならなくなります。復習をする時間が取れないばかりか、他の教科の勉強もできなくなってしまうのは困ります。予習は「3回の授業分」のように、まとめて行うようにしましょう。

②問題を自力で解く。

教科書や参考書を眺めるだけでなく、実際に問題を解いてみましょう。わからない問題は、すぐに解答を見るのではなく、調べる努力をしましょう。

③疑問点は書き出しておく。

どこがわからないのかをはっきりさせておきましょう。授業ではその部分をチェックし、先生が強調しているところをよく聞き、疑問点を残さないようにしましょう。

<授業>

①必ず予習してから授業に臨む。

予習をせずに授業に臨んでも、「話を聞くので精一杯」だったり「ノートをとるので精一杯」で、その内容については不十分で表面的な理解しかできません。授業のたびにわからないことを増やしていくと、そのうち「授業のすべてがわからないこと」になってしまいます。

②集中して話を聞く。

先生の説明は、予習での疑問点を解決するヒントでいっぱいです。わかったことでも、ひょっとしたらあなたは間違った理解をしているかもしれません。授業中は集中し、先生が強調している部分など聞き漏らさないようにしましょう。

③ノートの取り方を工夫する。

ノートを開いたとき、自分でも何が書いてあるのかわからないようでは困ります。丁寧に書くことはもちろんですが、単に黒板を書き写すだけでなく、先生が言ったことをメモするなど、そのときの授業の内容が思い出されるようなノートを作りましょう。また、計算は答えだけを書くのではなく、間違えたときに、どこで何を間違えたのかがわかるよう途中の過程を必ず書くようにしましょう。

<復習>

①その日のうちに復習する。

そのとき覚えていたことでも、時間がたつとなかなか思い出しにくくなります。その日の授業内容は、その日のうちに復習する習慣をつけましょう。ノートを見直すだけでなく、実際に問題を解いてチェックしましょう。

②参考書や問題集を活用する。

授業の例題や問題だけでは実力はつきません。参考書・問題集の類題を解いたり、発展問題にもチャレンジしましょう。解けなかった問題は「どこが間違っていたのか」、「何がわからなかったのか」を確認し、あとでもう一度解いてみましょう。

③先生に質問する。

わからないことや、解けない問題は、遠慮せず先生に質問しましょう。休み時間や放課後など、先生のあいている時間を利用しましょう。

④しばらくしたらまた復習する。

一度復習したことでも、時間がたつと忘れてしまうものです。3日後、一週間後、2週間後というように、間隔をあげながら繰り返し復習しましょう。繰り返し復習することで、さらに理解を深めるとともに、しっかりとした基礎学力を身につけましょう。

<テスト>

① 時間配分を工夫する。

限られた時間の中で解答するのですから、1つの問題に多くの時間を使うわけにはいきません。順番にとらわれることなく、やりやすい問題から手をつけていきましょう。また、かならず見直しができるように時間配分を工夫しましょう。

②途中の過程（考え方・解答への道筋）を書き残す。

解答のみを記入する場合は別ですが、解答するというのは結論だけを要求しているわけではありません。考え方、解答の道筋、表現の工夫、計算、すべてを評価します。従って途中の過程を必ず書くようにしましょう。たとえ結論が間違っていたとしても、考え方や解答への道筋が正しい場合はそれを評価します（部分点がもらえることもあります）。日頃から適切な記述表現の練習をしておきましょう。

③字は丁寧に、全体として構成が見やすくなるように書く。

他者に見てもらおうための答案です。しっかりと記名をし、誤読のおそれの無いよう、丁寧に書きましょう。また、結論がどこに書いてあるのかわからないものや論旨がつかないような答案は不可です。これらの要素も答案の一部として評価されます。

④返却後は復習する。

テストは受けたら終わりではありません。返却されたら「何が違ったのか」、「どこで間違えたのか」等できなかった問題をきちんと復習し、自分の弱点を克服しましょう。

*テストの結果が思わしくない場合には再テストを受けてもらうこともあります。

<評価>

評価については、数学への関心・意欲・態度、数学的見方や考え方、数学的な表現・処理、数量・図形などについての知識・理解の4項目です。

これらについて、定期考査（中間・期末）を中心に実力テスト、単元テストの結果や休業中の課題、授業態度及び出欠状況によって評価をまとめます。